

岳南広域消防本部及び中野消防署庁舎建設 概算設計

【概要版】

令和 7年 2月

1.目的

この概算設計は、防災活動の拠点として住民の生命・身体・財産を守るため、基本的な方針や概要について定めています。
また、新消防庁舎整備に必要な機能・規模、整備の考え方をまとめたものであり、今後の基本設計・実施設計につなぐ役割を持つものとして位置付けています。

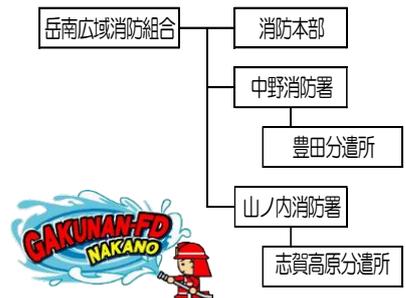
2.現状

構成市町 中野市,山ノ内町
管内面積 378.08km²
消防機能 1本部、2署
2分遣所

人口 中野市 40,680人
山ノ内町 10,641人
合計 51,321人
(R6.4.1)

構造 鉄骨2階建て
延べ面積 1494.84m²
用地面積 4692.1m²
しゅん工 平成7年11月

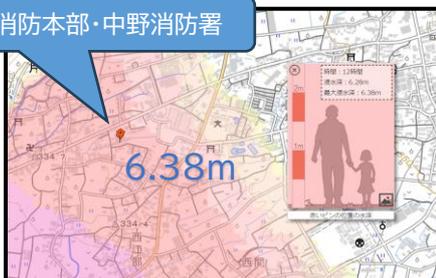
	本部	中野	計
職員	26人	49人	75人
車両	6台	12台	18台



3.課題

場所	<p>現在地は、平成28年5月30日国土交通省が指定した信濃川水系千曲川浸水想定区域に含まれ、最大6.38mの浸水が想定されています。大規模水害発生時における消防施設の機能維持の困難が想定され、住民の安心、安全を担保する条件を欠いています。 ※最大浸水想定は、水防法による千曲川の「浸水想定区域(L2:想定最大規模降雨)」</p>
建物	<p>現庁舎は建築から29年が経過し、雨漏りや地下水の浸透、敷地アスファルト舗装の劣化等が顕著で、今後大規模改修が必要となる見込みです。 また、令和3年度の組織再編に伴い、職員の増員や資機材の増加及び車両の大型化等により現庁舎の狭隘化が進み、今後の業務継続に支障をきたすおそれがあります。</p>
土地	<p>組合が発足した平成7年から3者と賃貸借契約を締結、土地評価価格が約8千万円(令和5年時点)に対し、30年間で約1億8千万円の賃借料の支払いとなります。</p>

消防本部・中野消防署



4.庁舎整備に関わる基本要件

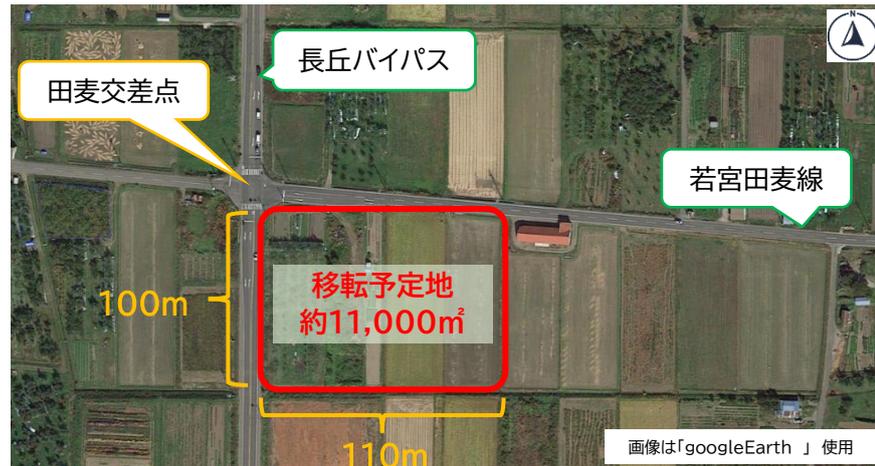
現庁舎が抱える課題や将来を見据えた視点を踏まえ、新庁舎の目指すべき方向性として、新庁舎整備を以下のとおり整理しました。

コンセプト	基本要件	
守る・防ぐ	住民を守るための災害拠点	
	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に強く、住民の安全・安心を確保するための庁舎 ・災害発生時に迅速な対応が可能となる庁舎 	
集まる・繋がる	人が集まる、繋がるコミュニティ	
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のシンボルとして魅力的な庁舎 ・多様なつながりや賑わいを生み出す、開かれた庁舎 	
活きる・輝く	執務空間が確保され働きやすい職場	
	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の効率化、変化に対して柔軟に対応できる庁舎 ・働きやすく、パフォーマンスを発揮できる庁舎 	
未来・継続	環境や景観への配慮	
	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な手法を取り入れ、環境負荷を低減できる庁舎 ・緑豊かな中野市の景観形成や周辺環境に配慮した庁舎 	

5.移転予定地

移転予定地は、現在組合が抱える課題の解消及び近年、移転を行った消防本部を参考に決定しました。現庁舎から北へ約 3.1kmの地点 となります。

敷地面積	内容
約11,000㎡	大規模災害の発災を想定した災害時受援場所及びヘリポート、また、消防団を要とする地域防災のための各種訓練場所として使用できる敷地。



項目	内容
用途地域	農業振興区域
	農振農用地
	都市計画区域
浸水想定区域	50cm以下
土砂災害警区域	なし
上下水道	なし

移転候補地の選定理由

- ・スムーズに緊急出動できるよう、敷地に面する道路は十分な幅員を有していること。
- ・冬季の除雪がしっかり行われること。
- ・夜間、休日等のサイレン、訓練等の騒音があっても影響が少ない場所。

6.庁舎規模

庁舎の規模については、現庁舎が抱える課題を解消しながら、消防庁舎に求められる機能を果たすために必要となる規模を検討しました。

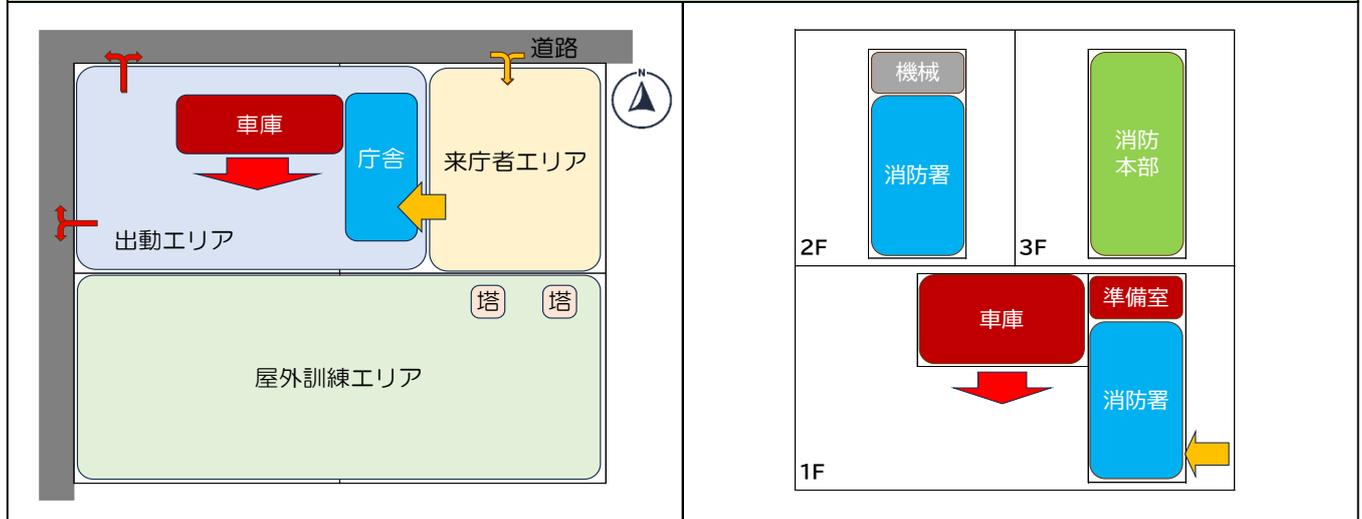
項目	規模	内容
庁舎	3,000㎡	保有車両数及び県内の消防本部の例を参考とし、当組本部の職員数等を踏まえ、算出
訓練塔	360㎡	複雑多様化する災害に対応するため、各種訓練に対応可能な十分な広さを持つ施設
最大人数	94人	定年延長を踏まえた職員採用計画に基づく人数
最大車両	19台	現有車両に今後、消防力の整備指針に基づくはしご車の導入を考慮
その他		駐車場、屋外訓練場、ヘリポート、操法訓練、緊急援助隊宿营地等

7.敷地、庁舎のゾーニング

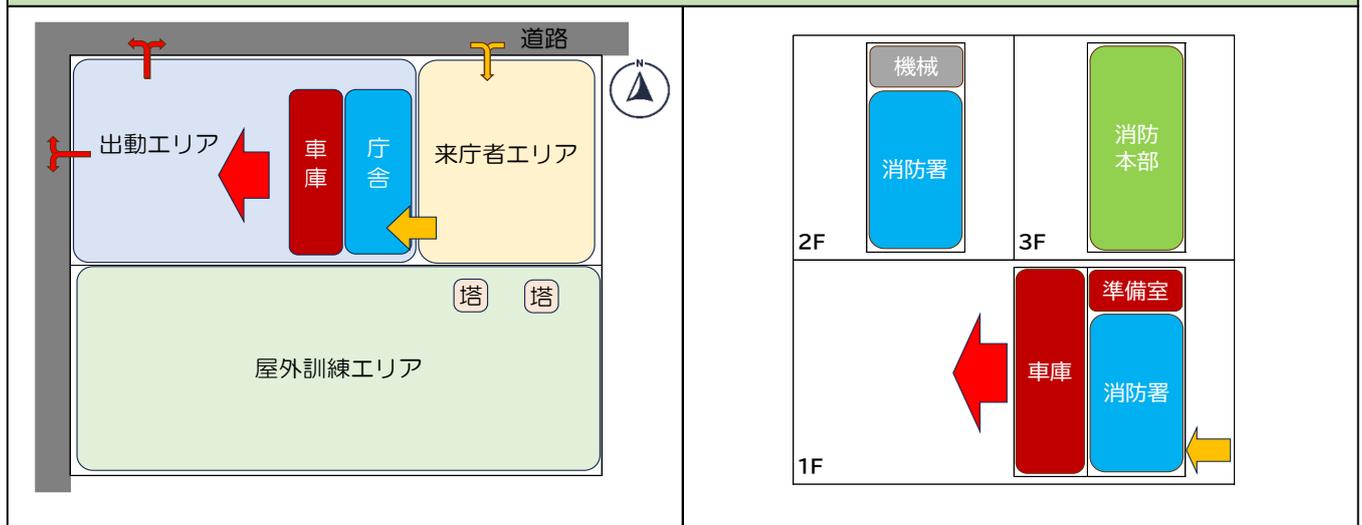
ゾーニングにつきましては業務遂行のため必要な事項を総合的に勘案し、基本設計において検討を行います。

敷地のゾーニング	庁舎のゾーニング
<ul style="list-style-type: none"> ・緊急車両、来庁者、訓練場所の区画分け ・2方向への出動確保 ・積雪、凍結への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・来庁者の利便性 ・緊急出動動線の確保 ・消防本部と中野消防署の区画分け

イメージ図1 緊急車両車庫 南向きプラン



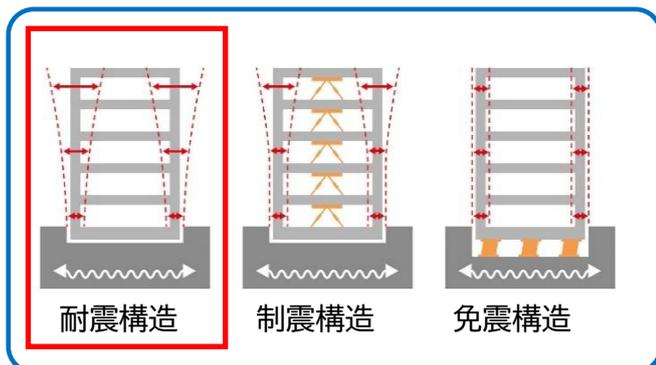
イメージ図2 緊急車両車庫 西向きプラン



8.耐震性能と構造

耐震性能は、構造体Ⅰ類、建築構造部材A類、建築設備甲類で整備します。

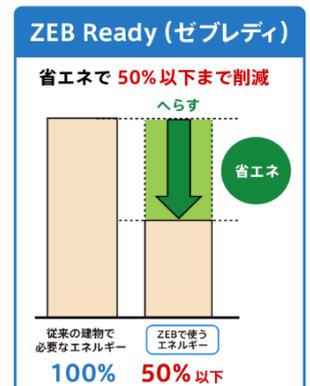
構造は、庁舎の規模、建設コスト、工期等から「耐震構造」を採用します。



9.スマート・エネルギー

エネルギーの無駄を減少させ、環境に優しい社会を実現することを目指すため、「ZEB Ready(ゼブレディ)」の実現を見据え検討します。

※ZEBとは、省エネ・創エネという2つの軸により、年間の一次エネルギー消費量を100%削減する建物
「ZEB Ready」とは、従来の建物から一次エネルギー消費量が50%削減となる建物



10.イントラネット整備(会社や組織の中でだけ使える専用のネットワーク)

ネットワークは表の4つの項目を基準とし、整備を行います。

消防指令系ネットワーク	出勤指令書、災害情報管理、NET119
事務系ネットワーク	財務会計、文書管理、災害出勤報告書
インターネット	ホームページ管理、メール送受信、WEB 会議
その他の接続	管内防災行政無線、県防災情報ネットワーク等

11.必要な諸室

各諸室の構成・規模は、今後実施される基本設計において更なる検討を行います。

区分	諸室	面積(目安)
消防本部	事務室、書庫、男性更衣室、給湯室	220㎡
	講堂、相談室	270㎡
	通信指令室、機械室、災害対策室、仮眠室	190㎡
中野消防署	事務室、書庫、会議室、団本部、団倉庫、給湯室	290㎡
	洗面・脱衣室、食堂、女性スペース、男性仮眠室	280㎡
	出勤準備室、資器材庫、多目的訓練室、救急洗浄室、救急備品庫	240㎡
共有部	正面玄関、廊下、階段、昇降機、エントランスロビー、エレベーターホール、展示コーナー、職員用玄関、男女トイレ、倉庫	970㎡
	車庫、乾燥室、油庫	540㎡
合計		3,000㎡
外部エリア	ガレージ、主訓練塔、副訓練塔、屋外訓練スペース、無線関係、ヘリポート、駐車場、駐輪場、ゴミ置き場、懸垂幕装置、消火栓、堆雪スペース、国旗等掲揚塔、ホース洗浄・乾燥スペース、電気・ガス・機械室、出勤表示灯、耐震性貯水槽、給水装置、避雷針	訓練塔 360㎡

12.概算事業費及び財源

(1)概算事業費

この概算事業費は近年の社会情勢変化及び資材等の高騰を考慮した金額となります。今後の基本設計・実施設計段階でより具体的な計画、積算を行います。

概算事業費は、総額約56.6億円、うち庁舎建設工事費は約34億円となります。

(2)財源

事業費の財源については、国の財政支援措置を活用するなど、財政上の優遇措置がある地方債、補助金等を最大限活用できるよう調査、研究を進めていきます。

13.スケジュール

整備スケジュールは表のとおり想定をしていますが、今後の検討の進捗により変更する場合があります。令和11年度4月の供用開始を目指します。

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
概算設計	■					
用地取得		■				
造成、外構			■		■	
基本設計		■				
実施設計			■			
建設工事				■	■	■ 供用開始
指令施設設計			■			
指令施設工事				■	■	
解体工事						■